
魔法少女リリカルなのは 革新の翼と天上人

キラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 革新の翼と天上人

【Nコード】

N8911K

【作者名】

キラー

【あらすじ】

ソラン・イブラヒム、高町なのは、フェイト・テスタロッサが別れてから10年のときが流れ、JS事件が終結して半年、ミッドチルダでは謎の私設武装組織『ソレスタルビーイング』が時空管理局に対して宣戦布告する。そして、ソレスタルビーイングの捕獲を任されたのはとフェイトが所属している機動六課が戦場に出るとき、10年越しの再開が今、訪れる。

プロローグ

1人の少年と2人の少女がいた。

少年の名前は『ソラン・イブラヒム』、1人の少女の名は『高町なのは』、もう1人の少女の名は『フェイト・テストロッサ』。

ソランが外国……クルジス共和国に行くために3人は離ればなれになることになった。3人はまた逢うことを約束して、ソランはクルジス共和国に両親とともに向かった。

ソランがクルジス共和国で平和に過ごしていたのも何時の間にか、隣国であるアザディスタン王国に攻められてしまう。ソランは望んでもいない戦争に少年兵として巻き込まれてしまった。

そして、クルジス軍がソランだけとなり、壊滅状態に陥ってアザディスタン王国の戦闘機が機銃でソランを殺そうとしてソランをロックオンすると同時にその戦闘機は1筋のビームの槍によって貫かれて爆破する。そして、空から降ってきた無数のビームはアザディスタン軍の戦闘機をすべて破壊する。

ソランが夜明けの空を見上げると、蒼白い粒子で形成している大きな翼を携えて、左手には赤いシールド、右手には小型のビームライフル……ビームガンが握られていて、その体はまるでロボットだった。

そして、日本ではクルジス共和国がアザディスタンに滅ぼされたというニュースを見たのはとフェイトはただ、悲しみに暮れるしかなかった。

そして、10年のときが流れて3人は再会する。……最悪な形で。

——魔法少女リリカルなのは 革新の翼と天上人、始まります。

プロローグ（後書き）

連載していきなりですが、ダブルオーガンダム以外のガンダム…ケルデイルガンダム、アリオスガンダム、セラヴィーガンダムのマイスターを募集します。

マイスターはケルデイルとアリオスのマイスターが女で、セラヴィーのマイスターが男を希望します。

募集期間は20日の23…30です。募集、よろしくお願いします！

主人公紹介

名前…ソラン・イブラヒム

コードネーム…刹那・F・セイエイ

年齢…20歳

所属…ソレスタルビーイングのガンダムマイスター

人種…純粹種のイノベイター（まだ、純粹種のイノベイターとして覚醒してはいない）

髪…ウェーブがかかった漆黒の髪

瞳の色…紺色、イノベイターの力を目覚めさせれば金の虹彩を宿した色になる。

容姿…ガンダム00セカンドシーズンの刹那・F・セイエイ。

性格…昔は明るい性格でなのは、フェイトとよく遊んでいた過去がある。クルジス共和国に行って少年兵として利用されていたときはアザディスタン王国を倒すことしか考えていなかった。ソレスタルビーイングの所有するガンダム『0ガンダム』のガンダムマイスターである『ルイード・レゾナンス』によって保護されてからは昔の性格に戻りつつある。

詳細…日本の海鳴市に生まれたクルジス人。幼少時はなのは、フェ

イトとは親友で魔法の存在も認知していた。事情によりクルジス共和国へ行くことになったとき、なのはとフェイトに「将来ソランのお嫁さんになる」と宣言された（マジです）。クルジス共和国に行つて1ヶ月平和に過ごす、隣国のアザディスタン王国が攻めてきて少年兵部隊の指揮を執っていた傭兵『アリー・アル・サーシエス』によって洗脳されて両親を射殺してクルジス軍へ。戦争中にアリー・アル・サーシエスも死に、クルジス軍がソラン1人になった時にアザディスタン軍の戦闘機の機銃がソランをロックオンしたと同時に当時、0ガンダムのガンダムマイスターだったルイード・レゾナスによって助けられて、ソレスタルビーイングに保護された。そこでソレスタルビーイングの創立者『イオリア・シュヘンベルグ』に管理局の闇と真実を教えてもらつてガンダムマイスターになることを希望してヴェーダによって選ばれた。その後、技術者に転職（？）したルイードに引き取られる。そして、新たに開発された4機のガンダムのうちの1機『ダブルオーガンダム』のマイスターとなり、訓練をつんでいる。ちなみに、大抵の家事はこなせる。

主人公紹介（後書き）

アリオスのマイスターが決まっていないので応募してください。でも、セラヴィーとケルディムのマイスターも決定というわけではないので、こちらにも応募してもらえると助かります。

1話 ソレスタルビーイング（前書き）

えーと、序盤は3世代の機体——ガンダムエクシア、ガンダムデュナメス、ガンダムキュリオス、ガンダムヴァーチェ（ガンダムナドレ）で進めさせてもらいます。

理由はこの小説ではダブルオーはツインドライヴシステムの調節、ケルデイムはGNシールドビットの遠隔操作の調節、アリオスはビームシールドの調節、セラヴィーはGNフィールド発生装置とフェイズバーストモードの調節が終了していからです。

それでは、魔法少女リリカルなのは 革新の翼と天上人、始まります、

1話 ソレスタルビーイング

一時空管理局・演習場――

そこでは新たに開発された新しい種類のデバイス『モビルデバイス』という種類の1つであるモビルデバイス『イナクト』の演習が始まっていた。

イナクトのマスターは演習場に配置された約30基の魔力ガトリング砲から放たれた魔力弾を次々と避けて、右手に握っているリニアライフルの構造でできた魔力弾を発射するリニアライフルのトリガーを引いて、ガトリング砲に備え付けられていた的を外すことなく破壊した。

イナクトのマスターは他のガトリング砲から魔力弾が発射されたことに気づいて、イナクトのマスターに警告する。警告を聞いたイナクトのマスターは左腕に装備されている防御兵器『ディフェンスロッド』を回転させて魔力弾を弾き返すように防ぐ。

すると、演習場の外部で監視を行っているモニターに背部から緑に近い蒼白い粒子をめぐらせながら演習場に向かってくる機体――
――否、イナクトのバリアジャケットのように期待のような蒼いバリアジャケットを纏った人間が向かってきた。その人間はゆらりと演習場に降り立つと、イナクトのマスターに視線を移す。

イナクトのマスターはアサルトナイフ型の武装『ソニックブレイド』を蒼い期待のバリアジャケットを纏っている人間に向けながら突進していった。

??? 「エクシア、目標を駆逐する」
くちく

20歳くらいの男性声が聞こえた後、蒼い機体のバリアジャケットを纏った人間は右手にマウントされているシールドに複合されて

いる銃——GNソードライフルのグリップを握ると自動的に収納されていた大型の実体剣『GNソード』が展開して銀色の刃を光らせる。

すると一閃、GNソードの鋭利な刃がイナクトのマスターのソニックブレイドを持っているほうの手首を一瞬で切断して、切断された後から鮮血が溢れ出す。

イナクトのマスター痛みと怯え^{おび}に耐えながら、右手のリニアライフルのトリガーを引いて魔力弾を撃ちだすも、蒼い機体のバリアジャケットを纏った人間のバリアジャケットは強度が高いのか、傷1つ付いていなく、青年は一瞬の間後ろを向くと肩の装甲^{アーマー}についている取っ手を外すと蒼天の色をした魔力刃が展開され、魔力刃が展開された剣——GNビームサーベルを振るってイナクトのマスターの左腕をディフェンスロッドごと斬り裂く。そして、踊るようにGNソードを振り回して手首を失ったイナクトのマスターの右腕を切断する。最後にGNビームサーベルで首を胴体を切り離す。

イナクトのマスターは首を胴体から切り離されて切断されたところから夥しい鮮血をあふれさせながら絶命する。

青年はGNビームサーベルのビーム刃を消して肩部にマウントしてGNソードの実体剣とソードライフルを収納する。それと同時にイナクトのバリアジャケットで覆われた人間だったものの肉片はガシャンという音とともに崩れ落ちてしまった。

それと同時に、ミッドチルダ首都・クラナガンの辺境の場所で魔道師が殺傷設定の魔力弾で狙撃されて10人の死傷者が出たという事件が起こった。

その事件に犯人と思われる人物——蒼い機体のバリアジャケットを纏った青年と同じような緑の機体のバリアジャケットを纏った女性がいた。その女性は地上から上空まで狙えるような長身の狙撃専用のビームライフル——GNスナイパーライフルを構えていた。

更に別世界、高機動型と思われるオレンジの機体のバリアジャケットを纏った女性がテロを仕掛けようとした魔道師に対して右手に握っている2つの銃口が供えられているビームライフル——GNビームサブマシンガンでオレンジ色の魔力弾でテロリストの魔道師を2人殺す。

他のテロリストの魔道師が管理局の建物に攻撃しようとしたとき、蒼白い粒子——GN粒子を纏った重装甲で身を固め、肩に2門のビーム砲——GNキャノンを装備して右手には巨大な銃口を持ったビームバズーカ——GNバズーカを持った青年が胸にある翡翠色の球体——GNコンデンサーにGNバズーカを連結して圧縮したGN粒子をGNバズーカにチャージさせると、青年はGNバズーカのトリガーを引くと、紫色の圧縮粒子を放つ。放たれた紫色の圧縮粒子はテロリストたちを飲み込み殺した。

この4つの大きな事件は管理世界とミッドチルダで大きなニュースとなり、蒼い機体のバリアジャケットの青年が『七本剣^{セブンソード}』、緑の機体のバリアジャケットの女性が『3つ目』、オレンジの期待のバリアジャケットの女性が『羽根付き』、重装甲のバリアジャケットの青年は『デカブツ』という異名で人々に恐れられるようになった。

これを見た時空管理局の3提督——ミゼット・クローベル、ラルゴ・キース、レオーネ・フィルスはこれを機会に、再びJS事件を解決した今はなき部隊——機動六課^{機動六課}を復活させようと考えた。

すると、ミッドチルダのすべてのモニター……訂正、全管理世界のモニターが何者かによって遮断され、すぐ黒い上着を羽織り杖を携えている老人——イオリア・シュヘンベルグがモニターに姿を現した。

イオリア「全管理世界で生まれ育った、人類に報告させていただきます。

私たちはソレスタルビーイング。モビルデバイス『ガンダム』を所有する私設武装組織です。

私たちソレスタルビーイングの活動目的はこの次元から戦争行為を根絶することにあります。

私たちは自らの利益のために行動は一切行いません。戦争根絶という大きな目的のために、私たちは立ち上がったのです。

ただいまを持ってすべての人類に向けて宣言します。

領土、宗教、エネルギー、使命——どのような理由があろうとも、私たちはすべての戦争行為に対して武力による介入を開始します。

戦争を^{ほうじょ}幫助する国、組織、企業、次元世界なども我々の武力介入の対象となります。

私たちはソレスタルビーイング。この次元世界から戦争を根絶させるために創設された、武装組織です。

繰り返します。全管理世界で生まれ育った——」

一次元空間内、ソレスタルビーイング母艦『プトレマイオス2』通称・トレミー内部――

??? 「親父、お疲れ様」

今、イオリア・シュヘンベルグを父と呼んだのは元・ソレスタルビーイングのガンダムマイスターで現在は技術士である30代前半の赤髪の青年——ルイード・レゾナンスである。ちなみに、姓が

違うのはルイードが婿養子という形で結婚したからである。

イオリア「ルイードか。マイスターたちは？」

ルイード「ブリッジに俺たち以外のクルーというぜ」

イオリア「そうか。ルイード、準備が出来次第、ミッションを開始せよと伝えてもらえんかの？」

ルイード「わかった。ちゃんと伝えるぜ」

そう言つてイオリアは部屋から出て行く。ルイードもイオリアの伝言を伝えるためにブリッジに行くため、部屋を出て行く。

一トレミー・ブリッジー

現在、ブリッジにはオペレーター席に座っている2人のオペレーター——フェルト・グレイスとミレイナ・ヴァステイ、ブリッジの前方の席には予備のガンダムマイスター兼砲撃手——ラッセ・アイオンが、隣の操舵席にはルイードの妻であり、フェルトを娘に持つ操舵手の女性——マレーネ・レゾナンスが、艦長席にはこの艦の艦長——スメラギ・李・ノリエガが座っている。

他のクルー——ガンダムマイスターたちもブリッジにいた。

1人はミレイナのオペレーター席に寄りかかっているデカブツ——ガンダムヴァーチェ、デバイス名はセラヴィー——のガンダムマイスターである紫の制服に身を包み、白髪のざんばらの髪型に右が淡い蒼で左が金色のオッドアイが特徴の日本人とアメリカ人のハーフであるガンダムマイスター——デルタ・D・ミナヅキがいる。

1人はフェルトのオペレーター席に寄りかかっている羽根付き——ガンダムキュリオス、デバイス名はアリオス——のガンダムマイスターであるオレンジ色の制服に身を包み、ポニーテールに纏めた漆黒の髪に漆黒の瞳、美しい容姿とグラマーな体系を持った中国人とアメリカ人のハーフであるガンダムマイスター——紅 春艶という女性がいる。

1人はブリッジのドアに寄りかかっている3つ目——ガンダムデュナメス、デバイス名はケルディム——のガンダムマイスターである深緑色の制服に身を包み、変色しかかっている黒いショートカットのヘアスタイルに黒紫色こくしに変色しつつある茶色の目が特徴の中国人のガンダムマイスター——コードネーム、ミリシア・ステトロイカ、本名をエイミー・チャンという女性がいる。

1人はスメラギが座っている艦長席の傍にいる七本剣——セブンソードガンダムエクシア、デバイス名はダブルオー——のガンダムマイスターである蒼色の制服に身を包んだ紺色の瞳にウェーブがかかった漆黒の髪、中東の人種でありながら日本人の容姿を持った珍しい日本生まれ、日本育ちの元少年兵であるクルジス人のガンダムマイスター——コードネーム、刹那・F・セイエイ、本名を……ソラン・イブラヒムがいた。

デルタ「イオリアのおっさん、とうとう宣言しちまったな」

エイミー「そうね、やるのは私たちよ。デルタ、春艶、刹那、わかっているわよね？」

デルタ「勿論だぜ！」

春艶「……私もわかっています」

ソラン「わかっているさ、俺たちはもう後には退けない。俺たちはガンダムマイスターだからな」

すると、先ほどまでイオリアと話をしていたルイードがブリッジに入ってきた。

フェルト「父さん、どうかしたの？」

マレーネ「お義父さんから伝言かしら？」

ルイード「ああ。準備が出来次第、ミッションを開始せよだってさ」
ラッセ「どうする？」

スメラギ「ミレイナ、イアンにダブルオー、ケルディム、アリオス、セラヴィーの調節は終わったか聞いてもらえるかしら？」

ミレイナ「はいですう♪」

ミレイナは調子のいい返事でルイードの師匠であり自分の父親であるソレスタルビーイングの技術者——イアン・ヴァスティに通信をする。

イアン『4機ともばっちりだ！』

スメラギ「わかりました。これより、ミッションをスタートします

！ マレーネ、進路をミッドチルダへ」

マレーネ「了解！」

こうして、ソレスタルビーイングは戦争根絶という名目で歪んでしまった組織——時空管理局に牙を向くことになり、戦争根絶のために武力介入を開始した。

1話 ソレスタルビーイング（後書き）

はい、マイスターの募集は打ち切らせてもらいます！ 理由は本編でも載っていたと思いますが、マイスターが決まりました！

ケルデイムのマイスターは天使の書物セファールラジエルさんが投稿してくれたエイミー・チャンです！

アリオスのマイスターは零崎士載さんが投稿してくれた紅 春艶です！

セラヴィーのマイスターは月光閃火さんが投稿してくれたデルタ・ディストリア
D・ミナヅキです！

天使の書物セファールラジエルさん、零崎士載さん、月光閃火さん、そのほかにマイスターを送ってくれた皆さん、本当にありがとうございます！

あと、イオリアはこの小説では生きている設定で、ルイードとマレーネは公式外伝のキャラクターでフェルトは2人の実子です。ソランはルイードとマレーネに引き取ってもらったため、フェルトはソランを「兄さん」と呼んでいる設定です。

次回もお楽しみに！

2話 ミッション、ロストログアの回収と違法研究所の破壊（前書き）

どうも、作者のキラーです。

コードネームがあるソランとエイミーですが、ミッション中は表記をコードネームである刹那とミリシアに変えます。

それでは本編をどうぞ。

2話 ミッション、ロストログアの回収と違法研究所の破壊

ソレスタルビーイングが世界に向けて戦争根絶という名目の宣戦布告が発表されてから数日、3提督は機動六課の再建を行うことになった。

メンバーは以前と同じく、部隊長にオーバーSSランクの女性——八神はやて、前線メンバーのフォワードはスターズ分隊が2丁拳銃型のインテリジェントデバイス——クロスミラージュの使い手の少女——ティアナ・ランスター、もう1人はローラーブーツ型のインテリジェントデバイス——マッハキャリバーとナックル型のアームドデバイス——リボルバーナックルの使い手である戦闘機人のプロトタイプの少女——スバル・ナカジマが、もう1つの分隊——ライトニング分隊には槍型の人工知能搭載型アームドデバイス——ストラダを所有する10歳の若き槍騎士——エリオ・モンディアル、もう1人はグローブ型のブーストデバイス——ケリュケイオンを使用する幼き竜召喚師——キャロル・ルシエが配属されて、各分隊の副隊長にはスターズ分隊が八神はやてが所有する魔道書型のストレージデバイス——夜天の魔道書の守護騎士ルケンリッターの1人で、ハンマー型のアームドデバイス——鉄の伯爵・グラーフアイゼンを使う鉄槌の騎士——ヴィータ、ライトニング分隊には炎の魔剣と称される人格搭載型のアームドデバイス——レヴァンティンを使う烈火の将——シグナムが配属される。

スターズ分隊長には管理局の切り札——エース・オブ・エースの異名とその圧倒的な砲撃を放ち犯罪者を倒すことから犯罪者たちの間でつけられた異名——管理局の白い魔王と称される赤い宝石形のインテリジェントデバイス——レイジングハート・エクセリオンを使う女性——高町なのはが、ライトニング分隊には管理局のエリート執務官でJS事件の黒幕——ジェイル・スカリエツテ

イを逮捕したほどの実力を持つ金色の閃光——フェイト・テスト
ロッサ・ハラウンが配属された。

機動六課が再結成されて1週間がたったある日、プトレマイオス
2では新しいミッションの内容がマイスターたちに聞かされた。

今回のミッションは第49管理世界——イシュタムかんりせかいに存在する
ロストロギア過去の遺産の回収と同じくイシュタムに存在する違法研究所の排除
だった。

フェルト「マイスターの皆さんはハッチに向かってください」

と、フェルトからの通信で自室で休憩していたエイミーと春艶、
デルタの部屋で一緒にゲームをしていたソランとデルタはミッショ
ンの開始を悟り、各自、トレミーのリニアカタパルトデッキに向か
う。

デルタ「ソラン、ミッションが終わったらゲームの続きやろうぜ！」
ソラン「わかった。だが、ミッションが始まるからミッション中は
ちゃんとコードネームで呼んでくれ。お前はミッション中でも俺の
ことをソランと呼ぶからな」

デルタ「へいへい、注意しますよっと」

ソランとデルタは別のハッチのため、別れた。

第1ハッチに着いたソランはすでにアリオスをセットアップして

GNビームサブマシンガンを手を持ったガンダムキュリオスの姿となったガンダムマイスター——春艶の姿があった。

ソラン「春艶、どうした？」

春艶「……早く戦いたいの。だから今回は私を先に行かせて」

ソラン「わかった。フェルト、先に春艶が出る」

フェルト『わかった兄さん。では、ガンダムキュリオス・紅 春艶、どうぞ』

春艶「……アイハブコントロール。キュリオス、紅 春艶——目標に飛翔する」

カタパルトデッキが動いて春艶がイシュタムに向かってGN粒子を吹かせて高速で行く。

第2カタパルトデッキ、ケルディムをセットアップしてGNスナイパーライフルを持って肩に新装備——GNフルシールドを装備したエイミーとセラヴィーをセットアップして両肩にGNキャノン2門を装備して右手にGNバズーカを持ったガンダムヴァーチェの姿となったデルタの姿があった。

ミレイナ『エイミーさん、どうぞです♪』

エイミー「了解したわ。デユナメス！ ミリシア・ステトロイカ——狙い撃つわよ！」

エイミー——ミリシアがイシュタムに向けてGN粒子を放出させて向かう。

ミリシアの後に続いて、デルタがカタパルトデッキに付いたデルタはミレイナの通信を受ける。

ミレイナ『ミナヅキさん、カタパルトの射出をそちらに譲渡するです♪』

デルタ「了解♪ ヴァーチェ、デルタ・D・ミナヅキ——行くぜ！」

ヴァーチェの装甲・パーティクルの背後からスラスタ代わりのGNドライヴからGN粒子が放出されて、デルタも春艶とミリシアに続いてイシユタムに向かう。

ソラン「…あとは俺だけか」

そうつぶやきながらソランはダブルオーをセットアップして左腕のハードポイントにGNシールド、右腕のハードポイントにGNソードを装備したガンダムエクシアの姿があった。

ソラン「ダブルオー、GNドライヴに不具合は？」

ダブルオー「大丈夫です。まったく心配はありません」

ソラン「ありがとう。フェルト、俺も出る」

フェルト『うん。カタパルトの射出タイミングを兄さんに譲渡するね』

ソラン「了解。ガンダムエクシア、刹那・F・セイエイ——出撃^で

る！」

ソラン——刹那もコンスラストーから放出される蒼白いGN粒子を更に放出させて先にイシュタムに行った3機のガンダム——ガンダムデュナメスになったミリシア、ガンダムキュリオスになった春艶、ガンダムヴァーチェになったデルタに追いつくためにエクスシア専用的高速装備——アヴァランチユニットを装備してあらかじめ大型GNコンデンサーにチャージしていた大量のGN粒子を放出させる。

—第49管理世界・イシュタム・古代遺跡内—

ロストロギアがあるとされている古代遺跡の内部に入った4人のガンダムマイスターたちは古代遺跡に張ってあった罠を破壊しながら進んでいた。

デルタ「本当にこの遺跡の奥にロストロギアがあるのかよ？」

ミリシア「スメラギさんが言ってたし反応があるから間違いないでしょ！」

春艶「……何かこっちに向かってくる……！」

現れたのは、ロストロギアを護衛しているかのように操られている8機の機械の兵士だった。

刹那^{せつな}「っ！ ダブルオー、GNビームダガーを！」

ダブルオー〈了解しました、マイスター刹那〉

デルタ「セラヴィー、GN粒子チャージを！ そのあとはGNバズーカで高濃度で圧縮したGN粒子を撃ちだす！」

セラヴィー〈了解〉

春艷「……GNシールド・クローモードへ。久しぶりに殺^やるわよ！」

アリオス〈了解したぜマイスターさんよお！ いくぜええ！！〉

ミリシア「ケルデйм、ガンカメラを」

ケルデймへわかった！ 狙撃はサポートします！

ミリシア「頼むわね」

刹那は腰部にあるGNビームサーベルと同じ取っ手を引き抜いて、ダガーナイフほどの大きさのビーム刃を展開させた小型ビームサーベル——GNビームダガーを2本ともブーメランのように投擲して機械兵を2機破壊する。

ミリシアはガンカメラを展開してケルデймのサポートもあり、GNスナイパーライフルでとても高度な精密射撃^{せいみつしやげき}を行って、遠距離から機械兵を2機破壊する。

春艷「はあああ！！」

アリオス〈GNシールドニードル展開！ やれえええっ！！〉

春艷はいつもは物静かな性格だったが、今は人格が変わったように^{バトルジャンキー}に戦闘狂のような性格に変貌して、機械兵の胴体をGNシールド・クローモードで胴体を残忍に真っ二つで引き裂いてもう1機の機械兵をGNシールドニードルで何度も鎧を突き刺してボロボロの状態でGNシールド・クローモードで機械兵の胴体を貫くと、先ほどと同じように引き裂く。

すると、どこからか機械兵が15機増えた。

刹那「増えた！？ デルタ、GN粒子のチャージは？」

デルタ「今完了したぜ。セラヴィー、GNバズーカ連結！」

セラヴィー〈了解。GNバズーカ、GNコンデンサーに連結をします〉

デルタは高濃度で圧縮されたGN粒子をチャージした大型GNコンデンサーにGNバズーカを連結する。その間にミリシアがGNフルシールドで、刹那がGNシールドとGNソードに複合された小型のシールドで機械兵による攻撃をすべて防御する。

デルタ「刹那、ミリシアの姉貴、圧縮粒子を開放するからどいてくれ！」

ミリシア「わかったわ！」

刹那「了解した！」

デルタ「GNバズーカ・高濃度圧縮粒子、開放！！！」
セラヴィー〈高濃度圧縮粒子解放〉

デルタがGNバズーカのトリガーを引くと同時に、GNバズーカの銃口から紫色の巨大な圧縮粒子ビームが発射されて、17機の機械兵が飲み込まれて爆破する。

デルタ「よし、GN粒子チャージ。あと、GNキャノンにもGN粒子をチャージしてくれ」

セラヴィー〈了解しましたマイスター〉

ミリシア「これではロストログアの回収とこの世界にある研究所の破壊、そしてガンダムを見た管理局員と研究者の抹殺ね」

春艶「……けど、管理局員がほかに来るかもしれないです」

刹那「ありえるな……」

デルタ「そのときはその管理局員も殺せばいいだけだろ♪」

ミリシア「まあ、その通りね」

刹那「なら任務を続行するぞ。反応は確かこの先だったはずだ」

背中のGNドライブからGN粒子を放出させて遺跡の最深部についたマイスターたちはロストログアらしきものを見つけた。

デルタ「これは……何だ？」

ミリシア「デルタ、貴方は少しくらい自分で考えたらどうなの？」

春艶「……これはソレスタルビーイングが製造したものみたい」

ミリシア「どういうこと？」

刹那「これにはGNドライブのブラックボックス——トランザムシステムの内容らしい」

デルタ「へえ、これがそんなに重要な箱だったとはね」

ミリシア「とりあえず持ち帰るわよ。春艶は先にトレミーに戻ってイオリアさんにこれを渡して。刹那とデルタは私と一緒に違法研究所を潰すわよ」

春艶「……私も行く」

刹那「いや、ここは俺たちより一番早いお前が言ったほうが早く届けられる。俺のアヴァランチユニットはまだGN粒子をチャージしているからな」

春艶「……わかった」

そのあと、春艶と別れてミッションを継続した刹那、ミリシア、デルタの3人は違法研究所に向かった。

―機動六課―

ソレスタルビーイング――いや、ガンダムマイスターの反応を見つけたはやては今、出動できるなのはとフェイトを呼び出した。

はやて「なのはちゃん、フェイトちゃん、ガンダムの反応が第49管理世界イシユタムで見つかったんや！ 行ってもらえる？」

なのは「わかったよはやてちゃん！」

フェイト「すぐに行くよ！」

はやて「頼んだで！」

違法研究所に到着した刹那、ミリシア、デルタは入り口を警護する6人の魔道師と戦っていた。

魔道師1「喰らえ！ クロスファイアーシュート！」

デルタ「GNフィールド展開っ！」

魔道師1は銃身が短い銃――カービン型のストレージデバイスで射撃魔法をデカブツと称されるガンダムヴァーチェの姿のバリアジャケットを纏ったデルタに攻撃するも、球体型の粒子防御壁――GNフィールドによって防がれてしまう。

ミリシア「ケルディム、GNフルシールド展開！」

ケルディム「オーライ、GNフルシールド展開！」

魔道師2「うわあああああっ！」

魔道師3「くそっ……………消えろ！」

GNフルシールドを展開して防御と攻撃を同時に行っているミリシアは両手に握っているビーム拳銃――GNビームピストルのトリガーを何度も引いて、魔力弾を連射して普通の杖型ストレージデバイスを持った魔道師2がミリシアの放った魔力弾に心臓を貫かれて人間の形をした肉片となる。

仲間を殺されて怒りに身をゆだね、槍型のアームドデバイスをミリシアが纏っているGNフルシールドを突き刺そうとする。だが、ミリシアは右手に持っているGNビームピストルを脰脛のホルスタ―に仕舞い、GNビームサーベルの魔力刃を展開して槍型のアームドデバイスを受け止める。

ミリシア「刹那！」

刹那「了解。エクシア、目標を駆逐する！」

GNショートブレイドを右手に持った刹那は左腕のGNバルカンから小さな魔力弾を連射して相手を牽制する。魔道師3は槍型のアームドデバイスでGNバルカンから連射された魔力弾をすべて防ぐも、GNショートブレイドで槍型のアームドデバイスを真っ二つに斬り、すぐさま、GNロングブレイドを手にとって魔道師3の腹を水平に切断して魔道師3は死ぬ。

デルタ「GNキャノン発射！ 2人とも退いてろよ！」

刹那・ミリシア「了解」

魔道師1「た、助けてくれ！」

魔道師4「諦めるな！ プロテクション！」

デルタの肩のGNキャノンの砲門から圧縮粒子ビームが発射されて、魔道師4がとっさに防御魔法——プロテクションを張るが、GNキャノンの威力はプロテクションを破壊して魔道師1と魔道師4を飲み込んで、辺りに鮮血が舞う。

刹那「俺が……俺がガンダムだ……！」

魔道師5「く、来るな！」

魔道師6「うわああ！」

魔道師5は剣型のアームデバイスを我武者羅に振るい、魔道師6はアサルトライフル型のストレージデバイスから魔力弾を撃って刹那に攻撃をする。だが、刹那は被弾したもののダメージは全く無いに等しく、GN粒子を放出させてホバー飛行をしながら空中で軽々と魔力弾を避けて魔道師5に近づくと、GNソードの刀身を展開させて魔道師5の腹に深々とGNソードを突き刺す。まだ完全に死んでいないようだったことに気が付いた刹那は右腕のGNバルカンを連射する。

魔道師5「つつつつつつ……！！！」

魔道師5は声にならないほどの悲鳴を上げて息絶える。

ちょうど、刹那が気づかないうちに背後に回っていた魔道師6はアサルトライフル型のデバイスのトリガーを引こうとすると、彼の心臓を一筋の閃光が貫通して息絶えると同時に魔道師6は倒れこむ。

ミリシア「刹那、あなた狙われていたわよ」

刹那「すまないな、ミリシア・ステトロイカ」

そう、さつき魔道師6を殺害したのはGNスナイパーライフルを構えたミリシアだった。

デルタ「それより早くミッションを遂行させようぜ。僕はソランとゲームする約束があるし」

刹那「デルタ、今は誰もいないとはいえミッション中だ。本名で呼ぶのは控えてくれ」

デルタ「わかったよ……だからGNソードライフルを向けるのはやめてくれ……」

ミリシア「それより2人とも、ミッションを早く遂行させたいなら行くわよ。ケルデウム！」

ケルデウムへガンカメラ展開！

ミリシア「狙い撃つわよ！！」

ガンカメラを展開してGNスナイパーライフルのスコープを覗いて扉の鍵をロックオンして鍵を破壊する。

ミリシア「私は下から攻撃するから2人は上の階から攻撃をして！」
刹那「了解した。デルタ、壁の破壊は頼む」

デルタ「任せろ！」

ミリシアが突入すると同時にデルタが違法研究所の最上階の壁をGNバズーカから放った魔力砲で破壊して先に刹那が突入する。

刹那はGNソードライフルから魔力弾を発射して研究所の違法研究者らしき白衣を着た人間を5人ほど殺害してあとから突入してきたデルタが左肩のGNキャノンから魔力砲を発射して10人の違法研究者を殺す。2人のバリアジャケットには赤黒い鮮血が飛び散っていた。

デルタ「此処からはカードキーがないと扉が開かないのか……なら

GNバズーカで「やめろ」どうしてだよ？」

刹那「ここには人造魔道師や超兵がいるんだ。俺がGNソードで扉を開く」

そういつて刹那はGNソードで扉をX状に切断して奥に侵入する。進入した刹那は前へ出てGNビームサーベルやGNロングブレイドなど7本の剣を巧みに操って違法研究者を斬り殺し、デルタは砲撃で刹那の援護と違法研究所の護衛をしているBーほどの魔道ランクだけを持つ杖型の量産ストレージデバイスを使う魔道師を砲撃で撃ち殺す。

デルタ「よし、あとはミリシアの姉貴と合流して人造魔道師たちや超兵たちを逃がしたりするだけだな」

刹那「ああ。だが、管理局から援軍が来るかもしれない。そのときは頼りにしているぞ」

刹那は微笑してデルタに声をかける。

デルタ「照れるぜ……そんなじゃ、ミリシアの姉貴と合流するぞ」

刹那「合流ポイントはこの先か……行くぞ」

デルタ「おう！」

ミリシアと合流した刹那とデルタは実験などでボロボロだった人造魔道師や超兵を解放して自分たちも外に出てミリシアがソレスタルビーイングの中核を司るスーパーコンピューター——ヴェーダにミッシェンクリアの報告をしようとする、鮮やかなピンク色の砲撃がミリシアの目の前を通り過ぎていった。

刹那「（あの砲撃の魔力光は……まさか……っ！）そこかっ！」

刹那は何か確信をしたかのように、すぐさま殺傷設定から非殺傷設定に変更してGNソードライフルから魔力弾を数発発射する。すると、その魔力弾は金色の魔力光で構築された槍で相殺される。

なのは「時空管理局です！」

フェイト「武装を解除して今すぐ投降して下さい。今なら罪も軽くなります」

デルタ「誰が投降するかよ自分で作った法律ルールを守らない組織なんかによお！」

ミリシア「人造魔道師を生み出したりして実験の道具にもしているしね……！」

突然現れたなのはとフェイトに怒りを孕んだ声でデルタとミリシアが反発する。

刹那「それに……魔法の文化がある世界に武力で介入して無理やり管理しているに過ぎない（なのは……フェイト……お前たちはそんな腐った組織にまだいたのか……）」

デルタ「やっちまおうぜソラン！……やべ……」

刹那「デルタ……！おかげで俺がソレスタルビーイングのマイスターだということを知られてしまった。なのは、フェイト、この声に聞き覚えはあるだろう？」

なのは「ソラン君！？……ソラン君、なの……？」

フェイト「ソラン、なんで？どうしてソレスタルビーイングなんかにいるの……？答えてよ！」

刹那「俺は昔のソラン・イブラヒムじゃない。俺はソラン・I・R・シュヘンベルグ、ソレスタルビーイングのガンダムマイスターだ」
イブラヒムゾナンス

——今、戦いしか出来ない優しい天使と管理局の切り札たちが敵同士という最悪な形で再開をした。

2話 ミッション、ロストログアの回収と違法研究所の破壊（後書き）

アンケートです。

管理局の独立治安維持部隊どくりつちあんいじぶたいという形でアロウズを出したほうが良いか、良くないか、皆さんの意見をお待ちしています。

本作におけるGNドライブの設定

本作におけるGNドライブはアニメ「機動戦士ガンダム00」と特に変わりは無いが、GN粒子がチャージされるとき、ガンダムマイスターの魔力光に応じて色を変える。

ダブルオーガンダムのガンダムマイスターであるソラン・イブラヒム（コードネーム、刹那・F・セイエイ）の魔力光は蒼のため、圧縮されたGN粒子は蒼色に変わる。

ケルデイルガンダムのガンダムマイスター、エイミー・チャン（コードネーム、ミリシア・ステトロイカ）の魔力光は深緑、そのため、圧縮されたGN粒子は深緑になる。

アリオスガンダムのガンダムマイスター、紅 春艶の魔力光はオレンジ、よって、圧縮されたGN粒子はオレンジ色に変色する。

セラヴィーガンダムのガンダムマイスター、デルタ・D・ミナヅキの魔力光は黒紫、よって、圧縮されたGN粒子は黒紫に変色する。

圧縮されたGN粒子は魔力も混ざっているため、非殺傷設定と殺傷設定を使い分けることが出来る。

本作におけるGNドライブの設定（後書き）

次回からは本編に入ります。

3話 悲しき戦い

第49管理世界イシユタム、3機のガンダムと管理局の切り札であるエース・オブ・エースと金色の閃光が戦闘を開始していた。

ガンダムエクシア——刹那・F・セイエイは両腕の装甲に内蔵してあるGNバルカンを連射^{れんしゃ}してフェイトとの距離を置きながら相手の出方を伺っている。すると、フェイトが高速移動魔法——ソニックムーブを使って一気に刹那との距離をつめると、自分の相棒である斧型のインテリジェントデバイス——バルディッシュ・アサルトを振りかざして攻撃を図ろうとする。

フェイトがバルディッシュ・アサルトを振るうと同時に刹那が左腕のハードポイントに装着しているGNシールドで防御すると、GNソードライフルのトリガーを2回連続で引き絞り^{しぼ}、フェイトの腹に圧縮したGN粒子を混合した非殺傷設定の魔力弾を2度発射してフェイトは1度刹那との距離を置く。

刹那がGNソードの実体剣部分を展開するとフェイトもバルディッシュ・アサルトのカートリッジをロードして空となった薬莢^{やつきょう}を排出すると、半実体化している巨大な黄金の魔力刃を展開したザンバーフォルムにして刹那がGNソードを、フェイトがバルディッシュ・アサルト・ザンバーフォルムを薙ぎ、互いの得物^{えきぶつ}をぶつけ合う。

それと同じ時間、ガンダムデユナメス——ミリシア・ステトロ

イカとガンダムヴァーチェ——デルタ・D・ミナヅキが管理局の
エース・オブ・エース切り札と称させるほどの腕の持ち主である高町なのはと戦っていた。

なのはは己が得意とする射撃魔法——アクセルシューターを使
 うも、ミリシアには遠距離からジー得ぬスナイパーライフルで相殺
 されるかGNビームピストルによって撃ち落とされて、デルタには
 どんな攻撃でも簡単に防御してしまう重装甲を持ちその上、すべて
 の攻撃をGNフィールドによって打ち消されてしまう。

そこで彼女は、デルタが纏う強固な壁（GNフィールド）を撃ち
 破ろうと、自身が使うレイジングハート・エクセリオンを砲撃モ
 ドに変えて、マガジンのカートリッジを2つロードすると、音叉の
 様な形をしたバスターモードの先端にピンク色の魔力を収束する。

なのは「ディバイイイイン…バスター——！！」

なのはが放った砲撃魔法——ディバインバスターはGNフィー
 ルドを纏ったデルタに向けて発射された。

ディバインバスターがGNフィールドに着弾すると、爆煙が発生
 する。

——やった！

なのははそう心で確信したが、現実には彼女が思っているほど甘く
 はなかった。なぜなら、先ほどより弱々しくなったGNフィールド
 を纏ったデルタが立っていた。

デルタはGNフィールドを解除して、胸部の大型GNコンデンサ
 ーにGN粒子をチャージして、高濃度で圧縮あつしゅくする。

デルタ「高濃度圧縮粒子、開放！！」

GNバズーカから発射された黒紫色こくしの圧縮粒子ビームは威力によ
 って目の前の敵を潰そうとする。

なのは「れ、レイジングハート！」
レイジングハートへラウンドシールドへ

怯えたような口調でラウンドシールドを張ったのはだったが、ラウンドシールドはミリシアの手に握られている2丁のGNビームピストルから連射された粒子ビームによって破壊されて、なのはは黒紫の粒子ビーム砲に飲み込まれてしまう。

GNソードをソードライフルモードにしてフェイトが放ってくる魔力の槍を撃ち落としながら刹那はGNバルカンを乱射して弾幕を張る。弾幕に突入したプラズマランサーは自然に消え去る。すると、フェイトはこのままでは勝てないと思い、バインドを使って刹那を拘束する。

フェイト「ソラン、武装を解除してこちらに投降して！」
刹那「……するかよおっ!!」

刹那はGNビームダガーでバインドを斬りおとして、GNビームサーベルを両手に持ってフェイトに切りかかる。

バルディッシュへプロテクションへ

とつさにバルディッシュの判断によって防御壁を張ってGNビームサーベルによる一撃を逃れたのもつかの間、プロテクションが解除されたと同時に刹那はフェイトの腹に蹴りを入れると、両肩にGNソードライフルから魔力弾を発射して痛め付ける。

刹那「弱いな。これがエリート執務官と呼ばれる人間の實力か、フェイト？ 帰れ。今のお前のような管理局の妄信を信じている狗いぬになんか用は無い」
フェイト「ソラン、待って！」

刹那はフェイトの言葉に耳を貸さず、コーンスラスタからGN粒子を放出してその場を後にする。

デルタ「ミリシアの姉貴、これで終わりか？」
ミリシア「そうみたいね。さっき刹那からも通信が入ったから」
デルタ「お、本人が来た」
刹那「遅くなった。ヴェーダには俺が通信を入れたからもうミッシェンの遂行は確認された。さっきイオリア・シュヘンベルグから退却命令が来た」
デルタ、ミリシア「「了解」」

3人はGN粒子を迸らせて次元空間内のトレミーへと戻った。

トレミーに帰還したソラン、エイミー、デルタは格ガンダムを技術士であるイアンとルイードに渡すと、ブリーフィングルームに向かう。

ブリーフィングルームに3人が着いたときには、マイスターである春艶は勿論、スメラギ、ラッセ、フェルト、マレーネがいた。

ソラン「スメラギ・李・ノリエガ、次のミッションか？」

スメラギ「いいえ、こっちに向かってくる次元航行艦が幾つか向かってきているの」

エイミー「管理局ですか？」

ラッセ「ああ、人革連じんかくれんの次元航行艦——ラオホウだ」

そう、第35管理世界——ユークリッドの管理局部隊『人革連』が保有する次元航行艦——ラオホウ老虎がトレミーに強襲を仕掛けようとするのがイオリアからの通信でわかった。

そのあと、フェルトとミレイナのおかげで実際に強襲を仕掛けようとする人革連の艦隊が発見された。

デルタ「要は人革連を叩き潰せばいいんですね？」

マレーネ「そうも行かないの。フェルト」

フェルト「わかりました、母さん。敵の指揮官がユークリッドの荒熊と二つ名があるセルゲイ・スミルノフ二等陸佐と言うことがわか

りました」

春艶「……厄介な敵」

スメラギ「そういうことよ。各員、所定の位置についてください！」
トレミークル「」「了解！」「」

そのころ、機動六課の隊舎ではなのはとフェイトが辛うじて取ってきたガンダムエクシア、ガンダムデュナメス、ガンダムヴァーチェのデータを機動六課の部隊長である八神はやてが閲覧していた。

はやて「なんなんや……この反応……？」

ガンダムの背部にあるコーンスタスターに無限に粒子型の魔力生成装置——GNドライヴ、通称太陽炉の存在に気が付いた。

はやて「こんな力野放しになんかでできへん。必ず管理局が管理せえへんと……」

と、改めてガンダムの捕獲を決意したはやてだった。

お知らせ

タイトル通りのお知らせです。

このたび、本作『魔法少女リリカルなのは－革新の翼と天上人－』を凍結することにしました。

理由は来週、学校のテストがありテスト勉強のため、アルバイトの数が増えたため、本作を執筆し続ける自信がなくなってきたからです。

これまでたくさん読者の方々に本作を閲覧してもらい、大変嬉しく思います。

テストが終わり次第、この小説を基にした新しいリリカルなのはとガンダム00のクロス小説を執筆しようと思います。

最後に、これまで本作を閲覧してくださった読者の皆様に感謝を申し上げます。いままでこの小説を読んで頂いてありがとうございます！

次回作でまた逢いましょう！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8911k/>

魔法少女リリカルなのは 革新の翼と天上人

2010年10月8日14時45分発行